



2020～21年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

Weekly Report Niigata



国際ロータリー
2020～21 年度テーマ
ロータリーは機会の扉を開く



2020～21 年度
新潟ロータリークラブ会長
高橋 秀松

新潟 RC 4 月第 3 例会 (2021.4.20)(書面例会併催) No.3362

(1) ロータリーソング「我等の生業」ピアノ演奏

(2) 高橋 秀松会長挨拶

先週 4 月 18 日、2020-2021 年度の地区大会が、新発田市民会館にて開催されました。今回はコロナ感染防止対策上、直接参加とオンラインでの参加形式での開催となった訳です。新潟からは、高橋秀樹さん福地利明さん山田隆一さん佐藤邦栄さんが参加されました。

私はオンラインでの参加でしたので、ディスカッションは出来ませんでしたが、ガバナーはじめ沢山の方のご挨拶、講演を拝聴することで、地区大会の意義、目的は、共有できたものと思っております。

永久寿夫氏の講演では、ロータリアンであった松下幸之助のお話「企業は社会の公器」であるとの講和、正にロータリーの職業奉仕に繋がっていると感じました。

また、ガバナー指名委員長より 2022-23 のガバナーノミニーとして、当クラブの高橋秀樹さんが、決定されたとの報告がございました。高橋ガバナーノミニーの挨拶を聞くにつれ、新潟 RC 全体で、応援お支えをしていかなければと思った次第です。

なお、地区大会の動画は 4 月 30 日まで見られますので、ご視聴頂ければと思います。URL は下記の通りです。

<https://youtu.be/Nrcs3o3IRyQ>

昨日 4 月 19 日は、ロータリーの創始者ポールハリスの誕生日です。本日はロータリーの友に載っている劇画を参考にポールハリスの人生をたどってみます。いうまでもなくポールハリスは、ロータリーの生みの親であり、その精神的な支えです。

ポールハリスは 1868 年 4 月 19 日に、ウイスコン州ラシーンで生まれました。同年には、ロータリーの職業奉仕理念を確立した、アサーフレドリックシェルドンも生まれました。1868 年日本では、慶応 4 年から明治になった年で、米山梅吉もこの年生まれます。

ハリスが 3 歳の時に、父親が破産し、一家離散状態となり、バーモント州ウォリングフォードの祖父母のもとに預けられることとなるわけです。その後はめったに両親に会うことは無かったようです。

少年時代のポールハリスは、感受性豊かな、ずいぶんやんちゃな少年だったようです。悪ふざけをしたり、授業をさぼることもしばしば。ブラックリバーアカデミーに入学するも、わずか数週間で退学し、バーモント大学でも退学処分となった様です。

その後一念発起して、アイオワ大学に入り直します。

ポールハリス 23 歳、大学の卒業式の時、先輩弁護士の記念講演で、次のように卒業生たちに進めたそうです「選んだ都市に落ち着きキャリアを築く前に、5 年間は小さな町に行き、今はばかげて無駄だと思えても、人生の寄り道に身を置くべきだ」と。ポールハリスはそれを「わくわくする冒険に出かける許可」と捉え、実際それから 5 年間各地を転々としします。多くの人の助けを借り、サンフランシスコ・クロニカル新聞の記者から、大理石のセールスマンまで、訪れた地域も、全米各地だけでなく、イギリス、ヨーロッパ大陸まで及びました。こうした経験から、「人間の生活の根本は善意と友情に支えられている」、と考えるようになったと思われます。後に 5 年間の愚行ともいわれていました。

ポールハリスが、シカゴに居を定めたのは 1896 年 27 歳の時でした。破産と横領による犠牲者を代理する弁護士業を開始します。

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてのシカゴは、自由主義経済が過熱し、不正や非合法の行為が横行していました。マフィアが活動し始めたのもこの頃です。そこには人間同士のつながりはなくハリスは孤独を強く感じていました。ロータリークラブのアイディアはそうしたハリスの乾いた心をいやすものでした。

1905 年ハリス 36 歳、シカゴロータリークラブが誕生します。最初の会合に集まったのが 4 人ですが、3 回目には 15 人となり、ハリスが会長に就任する 1907 年には 140 人を超える規模になっていたそうです。

ハリスは会長に就任後、親睦団体であるシカゴクラブの中に奉仕の概念を入れようとししました。その結果会員の中に不協和音が生じ、ハリスは責任を取って、会長を任期半ばで辞任することになります。1910 年には全米ロータリークラブ連合会が創設され、初代会長に返り咲きます。

2021年4月19日 15:30-17:00 於 イタリア軒

**演題 「企業が永続するためのヒント -
たくさんの失敗といくつかの幸運」**

**講師 (株)アバージェンス
代表取締役CEO 大西 秀亜氏**

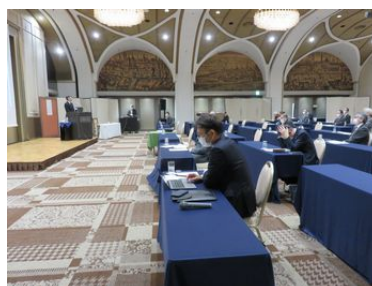
職業奉仕委員会の活動として、企業訪問が制限されている中、講演会で職業奉仕について勉強する機会といたしました。講師の大西秀亜氏は上場企業2社のCFOを歴任され、現在は上場企業やスタートアップやベンチャー企業の経営コンサル、社外取締役として活躍しておられます。講演会は29名の会員の方に参加いただきました。

内容は企業の永続に必要なことは何かご自身の経験の中からの失敗例を披露いただき、そこから得られた教訓などを包み隠さず、お話いただきました。例をあげますと「中途採用の失敗」や、「IPO後の幹部の退職」、「在庫管理」や「新システム切り替えの失敗」、「資金調達のリスクの取りすぎなど」などです。そして、どのように乗り越えたのか、それは「社長の思いと自社商品に魅せられた社員の力」ということでした。

また、CFOとして心がけてきたこととして、「会社の最終防衛のゴールキーパー」であったり、「社長の最大の批判者であり、支援者である」や「経営者の思いを社員へ伝える翻訳者である」など経験から裏打ちされたメッセージは熱く、聞いている私たちの胸に強く響いてきました。

トークセッションでは(株)アバージェンスの代表取締役社長である、渡部 公太郎氏も参加いただきました。会場から多数の質問が寄せられました。例えば、講演での話の具体例や大西氏がCFOをされた、フォーストリテイリングの柳井正会長の経営の仕方や特徴、それ以外でも、会社の目標達成の方法、人材の定着率向上への取り組み、企業の成長は売上や規模の成長以外にはどんなものがあるのか。大西、渡部両氏から熱のこもった回答をいただき、盛況のうちに幕を閉じました。

(職業奉仕委員会副委員長 小川潤也)



シカゴロータリークラブで急進的に奉仕の概念を取り入れた事で、会員の親睦の気持ちに、混乱をもたらした反省を込めて「Rational Rotarianism」という論文を掲載しました。彼は「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る」と説いたのです。これがポールハリスの思想上の原点「ロータリーは寛容の中に宿る」となりました。

ハリスの個人生活では1910年、42歳の時に12歳年下のジーン・トムソンと結婚します。その後ハリスは全米ロータリークラブ連合会の名誉会長となりました。以降は各大会への激励の論文を送ったり、匿名で寄付行為をする程度で、ほぼ15年間ロータリーの表舞台には立たず、謙虚な姿勢を続けることとなります。

1926年にはロータリーの活動を再開し、世界各地に出向きロータリーの普及に努めています。日本にも1935年に訪れて、米山梅吉とも会談をしています。

ポールハリスは1947年1月27日に78歳で亡くなっています。ポールハリスの墓はシカゴ郊外のマウントホープ墓地にあります。盟友シルベスターシールの隣に並んであります。

以上がポールハリスの人生ですが、彼の発信した言葉、発表した論文、ロータリーへの関わりなどに触れますと、ポールハリスという人物は、ロータリーのような偉大な組織を築いた人には似合わないような、謙虚で遠慮がちな、愚直なまでの勤勉な人、名文家で、何よりも人間愛にあふれた人ではなかったかと思うわけです。

(3) ニコニコボックス紹介(酒井 昌彦委員)

・大澤 強君 結婚記念日のお花ありがとうございました。5月に妻の誕生日もありプレッシャーをかけられております。

(4) 幹事報告(佐藤 邦栄)

Zoom参加の皆様、最初音声が出なくて申し訳ございませんでした。今回は、もっと準備して臨みます。

来週27日に予定していた観桜例会は中止し、イタリア軒にて12時半開会の例会をZoom 書面例会併催で行います。

(5) 4月20日例会の参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
82	79	52	65.83

Zoom参加者15名

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>